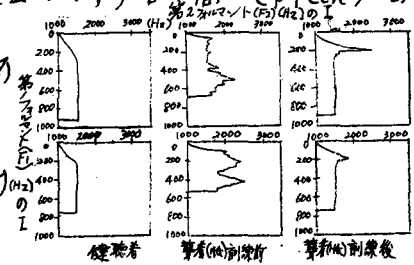
C 2

発声・発語に関する研究（第3報）

長崎大教育　　重永幸男

目的　幼児や難聴児の発声・発語訓練に有効な音声図形表示装置を用いて音声を図形化し，これを健聴者の音声図形と比較することにより，それらの相違を認知させ，視覚的なフィードバックをかける手法により，一方，健聴者の発声図形に類似する発声図形を作るよう指導し，効果的な発音の矯正を行わんとするものである。

方法　前回報告（日本家政学会第34回年次大会研究発表要旨集196頁参照）はブラウン管上縦軸；周波数（Frequency），横軸；音強度（Intensity）による表示（F－I図形）であったが，本発表は，縦軸に声音の第1フォルマント（F_1）の音強度，横軸にその第2フォルマント（F_2）の音強度を表示して図形（I－I図形）化するものである。すなわち，声音の中から特定の周波数成分をバンドパス・フィルターによって，二帯域を抽出し，それぞれ縦・横軸出力として表示するものである。したがって今回の装置では，声音の高さ（pitch）および抑揚（Intonation）の検討は行われない。

被験者　長崎市在住H氏（♀）ほか3名（いずれも30歳台，♀，完全聾）。

結果　I－I声音図形に示す通り，H氏の最初の声音図形は健聴者の音声図形と比較するとトガリが多く，息の出し方に不自然さが認められる。しかし再三の視覚的フィードバックをかけて発声訓練をおこなうことにより，可成り健聴者の音声図形に近づくことがわかる。